

SDGsとSMMのCSR

持続可能な社会をめざして

17のゴールと169項目のターゲットで構成されるSDGs(持続可能な開発目標)に企業としてどのように向き合っていくのか、SMMで検討が始まっています。

SDGsにどのように向き合っていくのか社内で議論や検討を開始

2015年に国連で採択されたSDGsは、2030年を目標年として策定され「誰一人として取り残さない社会」の実現をめざし、経済・社会・環境をめぐる広範囲な課題に取り組むもので、日本においてもSDGs推進円卓会議の検討を経て、2016年12月「SDGs実施指針」が策定され、日本の社会全体で取り組みが始まろうとしています。

当社は2008年、ステークホルダーとSMMグループのビジネスの両者にとって重要であり、かつ

取り組みを強化すべき重要課題を特定し、それを重点6分野(「資源の有効活用」「環境保全」「地域貢献・社会貢献」「人権・人材の尊重」「安全衛生の確保」「ステークホルダーとのコミュニケーション」)に整理し、「2020年のありたい姿」を策定しました。その後KPIの特定などの見直しを進めながら、CSR委員会(委員長:社長)の下部組織である、事業部門・コーポレート部門による「重点6分野」各部会を中心にCSR活動を進めています。

SDGsの17のゴールにおいて、例えば「NO.13 気候変動に対策を」などについては、SMMでも「環境保全部会」を中心に、地球温暖化対策に向けた「低炭素負荷製品(電池材料)の増産」「CO₂削減」などの施策を積極的に進めています。広範囲な課題に対しゴールを定めるSDGsに今後どのように向かい合っていくのか、十分な議論・検討が必要となっています。

SDGsについて理解を深める社内講演会を実施し次の「ありたい姿」の策定にSDGsを活かす

そこで、SDGs推進円卓会議構成員として日本指針策定にも寄与され、また2012年、2014年に当社のCSR報告書にご意見をいただくなど、当社事業やCSRの取り組み状況に精通されている、一般社団法人CSOネットワーク 黒田かをり理事をお迎えし、「SDGsと住友金属鉱山」と題した社内講演会を、2017年5月10日に開催しました。

講演会に参加した重点6分野各部長・部会員は、SDGsの本質や狙いについて学びを深め、また当社が加盟するICMM(国際金属・鉱業評議会)が、同会の「10の基本原則」とSDGsの17のゴールとの相互関連についてセクターとしてしっかりと進めて

いること(右図参照)を高くご評価されたことなどにより、SDGsについて認識を新たにしました。

今後、当社は「2020年のありたい姿」を振り返り、次の「ありたい姿」の策定を行う時期を迎えます。今回の黒田理事のご助言をもとに、CSRが経営そのものであり本業を通じてCSRを進めていく当社が、SDGsにどのように向き合っていくか、重点6分野各部会・CSR委員会による検討を進め、活動を進めます。

また次の「ありたい姿」の策定にあたっては、SDGsのゴールに対し当社が与える影響度等を評価し、優先課題を特定し取り組みます。

ICMMの10原則とSDGsのゴールとの関係

ICMM[※]は、鉱山・金属産業の社会への貢献をアピールするとともに、社会における産業の役割と責任を明確にし、持続可能な発展のために主要な課題に対応させた10原則を作成しており、会員企業は10原則をコミットメントする必要があります。

また、ICMMはSDGsを強く支持しており、鉱山・金属産業が積極的にSDGsに貢献するため、ICMMの10原則とSDGsの相互関係を分析しました。その分析の結果が左図です。

本図は、例えば、原則1(倫理的な企業統治)は、SDGsのゴール1(貧困をなくそう)、5(ジェンダー平等を実現しよう)、10(人や国の不平等をなくそう)、16(平和と公正をすべての人に)、17(パートナーシップで目標を達成しよう)との相関があることを示しています。

※ ICMM(International Council on Mining and Metals): 国際金属・鉱業評議会
2001年設立。世界の資源メジャーが中心となり、鉱山・金属産業の持続可能な発展のため、国連などの国際機関やNGO等と連携しながら活動しています。日本では当社を含む計3社が会員として参加。



ICMM 10の基本原則

- ① 倫理的企業活動と健全な企業統治
- ② 企業の意思決定過程における「持続可能な開発」の理念の堅持
- ③ 人権の尊重
- ④ 効果的なリスク管理
- ⑤ 労働安全衛生の向上
- ⑥ 環境パフォーマンスの向上
- ⑦ 生物多様性の維持と土地用途計画への取り組み
- ⑧ 責任ある製品使用・製品供給
- ⑨ 社会への貢献
- ⑩ 効果的かつ透明性の高い報告制度

SDGsのゴール

- 1 貧困をなくそう
- 2 飢餓をゼロに
- 3 すべての人に保健と福祉を
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を実現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 エネルギーをみんなに、そしてクリーンに
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさを守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナーシップで目標を達成しよう

SDGsを意識した「次のありたい姿」の策定を期待します

一般財団法人CSOネットワーク 事務局長・理事
黒田かをり様



日本経団連が「企業行動憲章」について、SDGsの観点から本年改定を予定するなど、SDGsへの関心が高まっていますが、各企業においては、CSRのこれまでの取り組みを活かしながらSDGsのゴールに向かって活動を進めていくことが大切です。

SMMグループが「SDGs」の取り組みを進めていくうえで、以下の視点が特にポイントになるのではないのでしょうか。

- バリューチェーンでのSDGsとのマッピング
- 世界・社会のニーズを深く意識した「アウトサイド・イン」のアプローチ
- 課題間のつながりを重視
- 横断的な 이슈(人権、女性のエンパワーメント、ジェンダーなど)を意識
- ステークホルダーとの対話や連携の更なる強化

SMMグループは既に「重点6分野」について、「2020年のありたい姿」に向けて地道に活動をされており、これからも各施策をしっかりと進めて欲しい。そして「次のありたい姿」は、SDGsを意識し持続可能な社会に向け策定を進めて頂きたいと思います。